

\ よろしくお願ひします。 /

新任医師紹介



第一外科医師 10/1 付

ながみ ただし
長見 直

初期研修終了後は兵庫県で救急医療を学び、現在は消化器外科に所属し、外科修練を行っております。地元である松江市の医療に貢献するため精進してまいります。よろしくお願ひ致します。



第二小児科医師 10/1 付

たまま ちひろ
真玉 千紘

この度、益田赤十字病院から転勤してきました小児科5年目の真玉千紘です。出身は島根県出雲市で島根大学卒です。松江の小児医療に貢献できればと思います。



整形外科医師 10/1 付

にし しんいちろう
西 真一郎

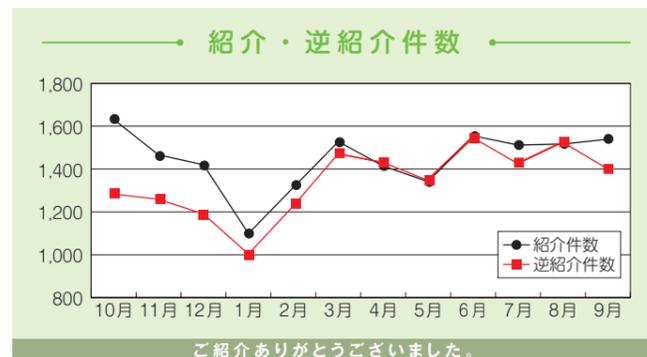
10月から赴任いたしました。整形外科専攻医として幅広い症例をみていきたいと思っております。至らない点等もありご迷惑をおかけすることもあると思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

退職者

● 令和5年9月30日付

リハビリテーション科医師	秦 公平
第一外科副部長	梶 俊介
整形外科医師	有福 佑
第二小児科医師	佐々木真優 (益田赤十字病院へ)

お世話になりました

松江赤十字病院 地域医療連携課
〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-78 13 FAX 0852-27-926 1

れんけいだより


vol.59
2023年11月号

安来圏域地域医療従事者スキルアップセミナー

誤嚥性肺炎を知るものは誤嚥性肺炎を制す



呼吸器疾患看護認定看護師
特定認定看護師
野津 栄子

高齢の方や嚥下に問題を抱える方が誤嚥性肺炎を発症して入退院を繰り返し、徐々に栄養障害の進行、筋力の低下など身体機能が低下してくることを看護の場面で多々悩んでおられる方が多いと思います。また別の疾患で入院したのに誤嚥性肺炎を契機に重篤化し生命にも影響する事もあったと思います。今回のスキルアップセミナーに参加された方の多くが同様のケースを経験されたのではないのでしょうか。そして、たくさんの質問を頂き、どうかかしたいという熱意を感じました。私も30年くらいの看護師経験の中で、誤嚥性肺炎ほど身近で悩む疾患はなかったと思います。しかし誤嚥性肺炎ほど看護の力、熱意で結果が変わる疾患はありません。

主に口腔ケアの必要性や嚥下訓練の話をしてきましたが、疾患・薬剤の管理、食べる環境や姿勢、食事の形態など多面的に評価し配慮した看護ができれば誤嚥性肺炎の予防や改善に繋がることが、また多職種チームでアプローチすることが効果をもたらすのだと感じました。食べたいものが食べられない状態で人生の終末を迎えることが幸せなのか？誤嚥して苦しい思いをするのではないのか？家族に協力してもらい食べることができるのか？様々な心配が誤嚥性肺炎の患者さんには付きまといまいます。日々の業務が忙しいと思いますが、工夫してチームで連携しながら患者さんの食べる満足感や笑顔が見られるように一緒に頑張りましょう。



高齢者の心臓リハビリテーション



リハビリテーション技術部 第二理学療法課長 福山 直樹

心臓リハビリテーションは心臓病の患者さんが、体力を回復し自信を取り戻し、快適な家庭生活や社会生活に復帰するとともに、再発や再入院を防止することをめざしておこなう総合的活動プログラムです。運動負荷が強過ぎると心不全増悪となり逆効果となってしまうため、心臓に負担をかけない運動を行なう必要があります。運動の目安を評価するために心肺運動負荷試験を行います。自転車エルゴメーターを使

用するため高齢者では難しいことが多いです。そういう時は、「息切れをせずに、会話をしながら続けられる程度」を目安として、運動の強さを「楽である」から「ややきつい」のレベルで行なうことが重要です。体重増加、足のむくみ、動いたときの息切れなどの心不全増悪徴候が生じていないかをチェックしながら進めていきます。

「心臓リハビリテーションはどのようなリハビリなのか具体的に教えて欲しい」「自宅で行えるリハビリはあるか、日常でできることアドバイスなど」「訪問リハビリでできるのか」「多職種連携の実態」等、事前にたくさんの質問を頂きました。また参加者は100人を超え、関心の高さが伺えました。

今回、発表用の原稿を作成しておらず緊張していましたが、内田副院長より「何を言うか考えながらスライドを作成しているはずだから、それを思い出しながら話せば大丈夫だよ」とアドバイスを頂き、しっかり発表することができました。

高齢者と心不全



心不全療養指導士 篠原 真帆

医学の進歩と社会の高齢化に比例するように、心不全の患者は増加の一途をたどっています。今や「心不全パンデミック」という言葉が表すように心不全患者の増加は社会問題にもなっています。私は、日々心不全に触れば触れる程、とても身近な病気であり、発症してからの療養行動の重要性はもちろん、発症するまでの予防

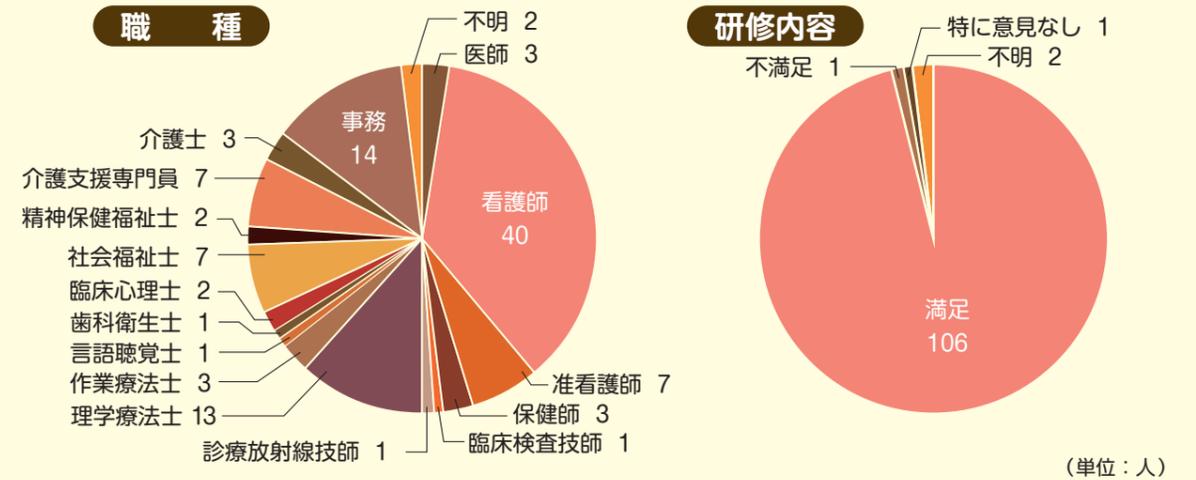
の重要性をとて感じるようになりました。現在心不全患者さんと関わっておられる方以外にも、多くの方に心不全に関心を持っていただくことが重要だと考えていた所に今回のセミナーのお話をいただきました。

心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です。まずはその人の心臓がなぜ悪くなるのかという原因疾患を知り、その疾患のコントロールに努めることが大切です。その上で、生活を送る上で最低限気を付けていただきたいことをどのように管理していくのか、周囲の人と共に考え、実践していける環境づくりが大切です。心不全と長く付き合っていくということは簡単なことではありません。

様々な職種が、それぞれの専門分野の視点から関わっていくことが、よりよい支援につながると思います。

第5回安来圏域地域医療従事者スキルアップセミナーアンケート結果

参加者数：120名 アンケート回答者数：110名 回収率：92%



【ご意見・ご感想】

- ・とても分かりやすい講演だった。今日の研修を業務やケアに生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・身近な話題でよかったです。ありがとうございました。
- ・どの演題も分かりやすく、明日からの臨床に活かしていこうと思いました。多職種での連携がとても大事なことを再認識しました。
- ・最近在宅で心不全の患者さんが増えていたのでとてもタイムリーなセミナーで良かったです。
- ・当院でも10月から心大血管リハビリテーションを始めることになり「心不全」という病気についてよく理解出来ました。レセプトや Dr へのアクションにも役立てたいと思います。患者様の振り返り票など参考にしたいと思います。多職種で色んなことをされていてとても感心しました。
- ・施設や家族等身の回りの人に心不全の人がいたので、大変勉強になりました。誤嚥性肺炎も高齢者に多いので少しでも減少出来るよう実践したいと思います。発表も大変分かりやすく良かったです。ありがとうございました。
- ・丁寧な説明で分かりやすかった。疾患管理に関して地域の事業所とも協力出来るだけ長く生活が続けるよう、サポート出来るようにしたいと思った。
- ・現在病棟に心不全を疑っている患者様がおられ参考になりました。今までは誤嚥性肺炎に絶食としました。
- ・口腔ケアが必要だと改めて思いました。
- ・心臓リハビリ、どんなものかと思っていました。興味深く聞かせていただきました。
- ・自施設の利用者様が誤嚥性肺炎にならないよう、日常の口腔ケア等注意し、自分ができることをしていきたいと思いました。
- ・循環器や呼吸器について、興味深いところが深く学ぶことが出来ました。心不全患者に対して Borg 指数をみていきたいと思えます。また、日々の肺炎患者に対して、口腔ケアを清潔な物品で実施していこうと改めて思いました。ありがとうございました。
- ・心不全ステージDになるまでに気づくように生活習慣病に気を付けていきたいと思いました。(利用者様も家族も)
- ・高齢者の死亡も誤嚥性肺炎が多いため、口腔内を清潔にし気をつけていきたい。
- ・三つのどのテーマも興味深い内容で、分かりやすい資料で理解しやすかったです。すぐに役立つ内容で臨床の場で実践していこうと思いました。今後も勉強の機会を頂き、知識を深めていきたいです。ありがとうございました。
- ・誤嚥性肺炎の看護についてはもっともっと教えて頂きたいと思いました。人工呼吸器装着中の看護などもっと教えて頂きたいと思いました。
- ・心臓リハビリテーションの効果、有効性をとても感じています。日常の中でいかに患者をシステムチックにひろいあげて提供できるか。そのしくみ作りが大変だけど大事だと感じた。心不全地域連携バス活用できるといいなと感じました。